



教育長コラム



『小田原を学ぶ』

小田原は、歴史・文化・産業、また地理的にもとても恵まれた所です。これらをぜひ学んでほしい、誇りにしてほしいという思いから、私が酒匂小学校の校長をしていた頃、朝会で子どもたちにこんな話をしたことがあります。

『小田原ちょうちん』



童謡『おさるのかごや』に、「日暮れの山道細い道、小田原ちょうちんぶら下げて」という歌詞が登場します。

箱根越えの寂しい細い山道を小田原ちょうちんの明かりを頼りに越えていく様子を表しています。小田原ちょうちんは、小田原に住んでいた職人甚左衛門という人が考案した当時のヒット商品として大変よく売れたということです。その理由を調べてみると、

- ① 箱根の山越えのために必要。【必需品】
- ② 大雄山最乗寺の神木を一部材料に使い、狐狸妖怪の魔よけとなる。【魔よけ】
- ③ 中骨が平たく、紙との糊代面積が大きいために、丈夫で雨や霧に強い。【丈夫】
- ④ 円柱形でリングの形をした中骨を使用、折りたたみができ携帯しやすい。【コンパクト】
- ⑤ 作業工程が簡単で、大量に安くできる。【たくさん・安く】ということでした。

朝会では、この理由と校歌の中にある「酒匂の里は東路のとぼそ（注1）とこそは知られけり」という歌詞から、酒匂の地でもきっと小田原ちょうちんはたくさん売られていたに違いないと私の考えを述べました。そして、この話から思ったこと、考えたことをクラスで話し合うように、また、校長室に来て個人の考えを聞かせて欲しいということをお伝えしました。学年によって感じ方や考え方に違いがあり、どのような感想や考えも良いと思いますが、私はこのように考えました。

- 箱根の入り口という地の利を生かし①、人間の心理を巧みにつき②、その上で使い勝手を考え③・④、大量生産⑤を試みた甚左衛門さんとは何と知恵の深い人か。
- 甚左衛門さんの考えは現在の社会でも手本になること。歴史は過去の出来事ということだけではなく、現代人の生き方の手本となること。また、校歌が示すようにごく身近に存在し、現在でも生き続けていること。私たちの生活と共にあるものだと感じました。

（注1） とぼそ…入り口、戸口という意味。かつて東京から西に向かう東路は酒匂の辺りで、金時山を通り御殿場へ回る道と箱根山を越える道があった。酒匂はその分岐点、入り口として知られているという意味。

（裏面へ続く）

今後、ますます加速されるであろうグローバル化の中で、将来子どもたちは様々な土地で生活するようになると思います。(できれば小田原に住み続けてほしいと思いますが)小田原にいても、科学技術や交通、情報等の発達により世界はますます身近になります。そうした時に、その土地で、その環境の中で、また、その時代の中で、より良い人生(充実した生活)を送り、その地域(社会)の発展を願い、より良い社会を創っていくためには、まず、自国の自分の住む土地(小田原)の歴史・文化・産業・気候・風土・地域社会等をしっかりと理解し、好きになることが必要です。

自国の歴史・文化等の理解なしに他国のそれらは理解できません。自分の住む土地の良さが分からなければ愛着がなければ、他の地域の良さは分かりません。

小田原の良さを学び理解し、好きになることが、子どもたちが国際人として生きていく上での基礎となると考えています。



小田原市教育委員会教育長

柳下正祐

● 学校給食展とは？

小田原市では、市内全ての公立小中学校と幼稚園2園で給食を実施しています。

毎年、園児・児童生徒やその保護者、地域住民など広く市民の方々に学校給食を知っていただくため、学校給食展を開催しています！



パネル展示の様子

昨年度は、学校給食週間(1月24日～1月30日)に合わせて、市役所2階ロビーにおいて小田原の学校給食の歴史や給食の内容を紹介するパネル展示、及び「小田原献立」、「かまぼこ献立」の給食レシピの配布を行いました。

また、市役所7階食堂において、実際に給食で食べているソフト麺を使ったミートソースやホットラーメンを使った梅丸ラーメンなどをメニューに取り入れてもらいました。

梅丸
ラーメン

ソフト麺
ミートソース



今年度の学校給食展は、
1月24日(月)から2月4日(金)まで、
市役所2階ロビーにてパネル展示を行い、
給食レシピの配布などを実施します。
皆様ぜひご来場ください！！

